

「花の時間」

チエコ

マスミ

瞳子

妻

高中
愛美

誰もいない稽古場。

上手側に扉があり小さなロビーがあり外に繋がっている。

下手側にはキッチンや小道具置き場が奥にある。

ブルー明かりで稽古場が見えている。

上手から車やトラックの走行音が漏れ聞こえている。

扉に瞳子が張り付き中を覗きこむ。

ゆっくり扉を開け中を伺い、電気をつける。

誰もいないことを確認し、荷物を放り踊り出す。

ひとしきり踊り、笑い出す。

脚をあげたりジャンプしたりと一人の稽古場を楽しんでいる。

チエコ あれ？あんな誰？

荷物を抱えたチエコが、上手扉から入ってくる。

瞳子 ……こんにちは。

チエコ 新しい子？

瞳子 あのことあなたは？ごめんなさい。部外者の人いたらダメなんです。出て行って貰えます？。

チエコ 私ココの人だったんだけど。

瞳子 でも知らない。

チエコ だから新しい子なんでしょ？

瞳子 困ります。出て行って下さい。お願いします。怖いです。

チエコ 怖いつてなに？稽古何時から？今日マスマミいる？

瞳子 ……今日は誰も来ないと思いますけど？

チエコ じゃあなんでいるの？何か頼まれたの？

瞳子 踊りに来たんです。

チエコ 今ダンスなんてやってるんだ。講師誰？

瞳子 勝手にきたんです。すみません。

チエコ 自主練？

瞳子 すみません。本当に出てってください。怒られちゃうから。

チエコ そんなんで怒らないでしょ。

瞳子 でも…。あの…。わたし帰ります。

チエコ 待つて。もう少しここにいてよ。ね、お願い。

瞳子 帰ります。(立ち去ろうと扉に近づく)

チエコ あと少しだけお願い！

瞳子が帰らない様に間合いを取り、行く手を阻む。

負けずに帰ろうとするがガードされる。

間

瞳子は放っていた鞆を抱え隅に座る。

チエコ ねえ、あんたいつ劇団員になったの？

瞳子 違います。

チエコ なに？

瞳子 私劇団員じゃありません。

チエコ え。じゃあ研修生？

瞳子 そんな感じですよ。

チエコ ふーん。

間

瞳子 やっぱり帰ってもいいですか？

チエコ お願いしたじゃない。

瞳子 でも誰か来たら困るし。

チエコ あとほんのちよつとだから。私一人をココに残していいの？

瞳子 本当に困るんです。

チエコ 誰か来たらかばってあげるから。

瞳子 でも、無理です。さよなら。

瞳子、扉に走り体当たりをする。

開いた先にはマスマミがいる。

マスマミ 何!?

瞳子 ごめんなさい。

マスマミ なんているの!?

瞳子 ごめんなさい。

走り去る。

マスマミ ちょっと!

追いかけてようとするがチエコが視線に入る。

マスマミ え、久しぶり。なんで?

チエコ ちょっと田原さんに呼出されて。

マスマミ え、もういるの?

チエコ 今はいない。

マスマミ そうなんだ。買い物?

チエコ そう。

マスマミ あの子もいたの?

チエコ そうよ。

マスマミ なんで?...もう話済んだ感じ?何時からいたの?

チエコ 1時間くらい前かな。

マスマミ そんな前からいたんだ。早めに来ればよかった。あの子なんていたの?

チエコ : 田原さんに呼ばれてたよ?

マスマミ なんで?

チエコ まだ言えない。

マスマミ …そう。何買うって？

チエコ 何が？

マスマミ 田原さん。

チエコ いや、一回家帰るって言ってたかな？

マスマミ え。あと30分で帰ってくるのかな。

チエコ そんなこと言ってたよ？

マスマミ ならいいけど。テーブル出さなかったの？

チエコ 大した話じゃなかったし。出す？

マスマミ いいよ。きつと私の話もすぐ終わるから。あの（遮られて）

チエコ 田原さん何時だっけ？

マスマミ 19時30分。バイト終わる時間に合わせてもらったの。

チエコ マスマミは何の話？

マスマミ 次の公演の打合せ。チエコはなんで？

チエコ ちよつと相談があつて。

マスマミ …田原さんとは連絡とってたんだね。

チエコ まあね。

マスマミ 仕事は順調？

チエコ 何も変わらないよ。

間

マスマミ やつぱりテーブル出そうか。この後飲みになるかもしれないし。

チエコ そうだね。

下手側からテーブルとパイプ椅子を出し並べる。

チエコ 最近はどうなの？

マスマミ どうって？

チエコ 芝居？

マスマミ 忙しくしてるよ。次の本が決まらなくてどうしよう。

チエコ 誰が出るの？

マスマミ 本次第かな。

チエコ そりやそうだよね。

間

チエコ ココも全然変わらないね。

マスマミ 5年ぐらいじゃ変わりようがないでしょ。

チエコ でも新人も入ったんでしょ？さっきの子とか。

マスマミ あの子は違うよ。

チエコ そういえばそんな事言ってたわ！

マスマミ 去年の研修生なんだけど…面白いんだよ。(言いよどむ)

間

マスマミ 何話してたの？

チエコ さっきの子？

マスマミ それもそうだけど、田原さんと。

チエコ 相談？

マスマミ 私には言えないこと？

チエコ まだ決まってるじゃないことだから。

マスマミ でもチエコの中では決まってるんでしょ？

チエコ …。

マスマミ 帰ってくるの？

チエコ え？

マスマミ 帰ってくるんでしょ。

チエコ …。

マスマミ ほら。田原さんは？喜んでたでしょ？

チエコ …。

マスマミ なんて何も言わないの？悪いとか思ってるの。

チエコ 帰りたいと思ってる。

マスマミ けど負い目がつて？本決まってるって言ったけど、候補は何個か出してるの。それで決まりそうなの。

チエコ よかったじゃない。

マスマ 私は出したの。私が演りたいと思ったから。

チエコ うん。

マスマ ……なんで帰ってきたの？

瞳子、上手扉から入ってくる。

瞳子 ごめんなさい。お金…。

マスマ お金？

瞳子 使用料。

マスマ なんで？田原さんもいたんでしょ。

瞳子 いえ。ひとりでした。

チエコ 話しの前に使ってたみたいよ！

瞳子 え…？

チエコ ね。

瞳子 …。

チエコ ね？

瞳子 そうなんです。

マスマ じゃあ勝手に使ってたってこと？それとも誰かがいって言ったの？

瞳子 (チエコをみて) はい。

マスマ え、どっち？

チエコ 田原さんがいって言ったんだよね？

瞳子 はい。

マスマ 鍵は？

瞳子 (チエコを見るが指示がないので)ポストから。

マスマ ポスト？暗証番号教えたの？

チエコ いや、田原さん開けてくれたんじゃないっけ？

瞳子 はい。

チエコ 流石にね。

マスマ そうだよね。

瞳子 じゃあ。

マスマ ちよつと！あんたも田原さんに呼ばれたんでしょ？

瞳子 いえ。

チエコ 呼ばれた！さっき話してたじゃん。待ってないと。ね？

瞳子 (チエコみて) はい。

マスマミ じゃあ帰っちゃダメじゃない。

瞳子 すみません。

マスマミ 田原さん忘れてるのかな？

チエコ まだ時間じゃないよ。

マスマミ 私飲み物買ってくる。

チエコ いったらっしやい！

扉が閉まる。

チエコ なんで帰ってきたの？

瞳子 お金払い忘れてて。

チエコ …あんな何？

瞳子 高橋です。

チエコ 研修生じゃないの？

瞳子 去年はそうでした。

チエコ 今は？

瞳子 違います。

チエコ じゃあどうやって入ったのよ。

瞳子 だから、いつも通りポストの鍵です。

チエコ …。とにかく、田原さんに呼ばれた設定だから。

瞳子 はい。

チエコ 分かってる？あんたも一緒に話したの！

瞳子 高橋です。

チエコ 高橋も一緒に田原さんと話した！いい？

瞳子 何を？

チエコ わかんない！

瞳子 …私帰ります。

チエコ 困るって！帰って来ちゃったんだもん合わせてよ！役者でしょ？

瞳子 でも…。

チエコ いいから！座って。いるだけでいいから。

マシミ、ペットボトルを持って帰ってくる。

マシミ もう19時30分になったよね？電話してみようか？

チエコ でも電話すると怒るじゃない。

マシミ それは書いてるときでしょ？いいよ、私かけるから。

チエコ でも出ないかも。

マシミ とりあえずかけてみよう。

チエコ じゃあ私かけるよ。

マシミ いいよ。怒られるかもしれないでしょ？

チエコ 大丈夫！機嫌取るのなれてるから！バイト帰りで疲れてるでしょ？座ってて。

マシミ (勢いに押されて) そう？。

チエコ うん！

チエコ電話をかけるふりをする。

チエコ あ！田原さんいつ来ます？そうですか。遅れますか。伝えておきます。大丈夫です。

はい。お疲れ様です。はい。

マシミ すぐ遅れるんだから。

瞳子鞆を抱え立ち上がるが、チエコが制すのでまた座る。

マシミ 元気だったの？

瞳子 はい。

マシミ 芝居は？

瞳子 …最近はダンス頑張ってます。

マシミ 芝居はやらないの？

瞳子 やれたらいいんですけど…。

チエコ まあ、タイミングってあるしね。

マシミ 芝居は続けなきゃダメだよ。舞台に立たないと何にもならない。

チエコ ブランク空いても出来る人はいるから。

マシミ 埋められると思ってる？

チエコ 埋めるよ。

マシミ ご機嫌とって？

チエコ よく言ってたよね。意見言わない奴ばかりいい役ついて、私は煩いからいい役が来ないって。私がいなくなっただうだった？いい役きた？

マシミ …。

チエコ ご機嫌ってなに？自分ができる仕事やってるだけじゃない。みんな一緒。

瞳子 あの…私

チエコ (遮って) そんなに相性悪いなら辞めれば？他にいくらでもあるでしょ。

マシミ あんたとは違うから。私は言いたいこと言い合っただけ居をよくしていきたいの。

チエコ それで煙たがられてたら意味ないでしょ？

マシミ さつきから知ったような口利くのね。

瞳子 わたし、

チエコ 知ってるから。分かるものココは何も変わってない。時代に取り残されてる。

マシミ …じゃあなんで帰ってくるの？

チエコ …。

マシミ あんたこそ他行きなさいよ。こんな古くさいところいたくないでしょ。

チエコ 古くさいとは言っていない。あなたの主観でしょ。

マシミ 取り残されてるって言ったでしょ？

瞳子 走り出し包丁を持って。

瞳子 あの！

言い合っている二人はお互いしか見えていない。

マシミ うるさい！

チエコ 引っ込んでろ！

瞳子、喚きながら二人に突っ込みテーブルに包丁を突き立てる。

瞳子 止めてください！

二人は包丁を確認し止まる。

瞳子 やめてください。わたし、帰りたいです。芝居が何。私だつてアンティゴネやりたかったのに、演らせてくれなかったじゃない。選べたはずなのに。それと一緒にしよう。

包丁を二人に向け

瞳子 これは何？田原さんはいつ来るの？私はいつ帰れるの？

チエコ …。

マスミ 高橋落ち着いて。包丁ちょうだい。

瞳子 ダメ。またケンカするでしょ。

マスミ 客演頼まれたんでしょ？その話をしないと。

瞳子 そうなの？

マスミ そうじゃないの？(チエコに)一緒にいたんだよね？

チエコ …。

マスミ ちょっと！田原さんには私から話しておくから、帰っていいよ。

瞳子 …いえ。

チエコ え？

瞳子 芝居やりたいです。

マスミ じゃあそれ、こつちにちょうだい。

瞳子 これは持ってます。

マスミ …でも、こんなんじゃ話もできないし

瞳子 (遮って)持ってます。

間

チエコ お腹すかない？

マスミ …。

チエコ 何か買ってこようよ。

マスミ そうね！高橋何か食べたいのある？

瞳子 いいです。

チエコ そう？じゃあ私たち買い物してくるよ！ちょっと待ってて。

瞳子 でも

チエコ コンビニ行っただけだから。

瞳子 でも田原さんが来たときに何話せばいいか分からないので、いてください。

間

瞳子 お願いします。

マスマミ わかった。

チエコ (小声で) ちょっと！

マスマミ しょうがないでしょう！

チエコ じゃあ、私出てくる。マスマミいればいいよね？

マスマミ あんたいないと話の流れが分からないじゃない。

チエコ 大した話してないから大丈夫。直ぐ戻るよ。

マスマミ あんたはいつも自分勝手！よく私を置いていけるね？

チエコ マスマミが残るって言ったんじゃない。頭いいんだし大丈夫でしょ。私あの子と接点ないし。

マスマミ 私だってよく分からない！

瞳子 どうしました？

チエコ なんでもない！ちょっと！大きな声出さないでよ。

マスマミ …。

チエコ ちょっと。ごめんって。

チエコ自分の鞆から酒瓶を取り出し

チエコ 飲もう。

マスマミ …よく飲もうなんて言えるね。

チエコ あんたも飲むでしょ？コップ持ってきて。

瞳子 はい。

チエコ (鞆をあさりながら) つまみは無いか。ここお菓子置いてなかった？
マシミ …。

チエコ ねえ？研修生ちゃん？

瞳子 高橋です。研修生ってやめてください。

チエコ ごめん。で、あるの？

瞳子 たぶん。

菓子箱を探しに下手に引込む。

チエコ 今なんじゃない？

マシミ でも…。

チエコ どっちかが出て助けを呼ばいいじゃない。

マシミ どっちが？

チエコ …いいよ、行って。

マシミ うん…。

チエコ マシミは帰ってくるでしょ。

マシミ 当たり前じゃない。

チエコ じゃあ、行って。お願い。

マシミ わかった。

マシミ鞆を手に取り出口に向かう。

田原の妻が入ってくる。

妻 ごめん。田原まだ帰ってこれないって連絡あつて。

マシミ あ、お疲れ様です。でも、ちよつと外で(妻を押しだそうとする)

妻 なんで？大分遅くなるみたいだからお詫びに焼き鳥買ってきたよ。食べようよ。

マシミ いや、早く出ないと。

瞳子 お久しぶりです。

妻 高橋？どうしたの？

瞳子 客演のお話ありがとうございます。

妻 (マスマミに) 何の話？

マスマミ いや、田原さんが客演について言ってるって聞きましたけど？

妻 そんな話知らないけど。

マスマミ え？でも…

妻 だいたい本決まってるじゃないでしょ。

マスマミ まだですけど、田原さんの中ではもう決まったってことじゃないんですか？

妻 決まってると思うけど。

瞳子 どういうことですか？

妻 なに？ちよつと。

瞳子 芝居ができると思ったのに。どういうことですか？

妻 何の話？

瞳子 もういや。なんなの！？

妻もマスマミもおびえて瞳子から距離を取る。

瞳子 そうやって、遠ざけてまた笑うんでしょ？ひどい。ひどい。ひどい。

妻 ちよつとなんなの？なんで高橋がいるの？

マスマミ 私が来たときにはすでにいましたけど…。

妻 え？どうやって入ったの？

マスマミ チエコなら。

妻 なに？

チエコ、高橋の背後にしのび酒瓶を振り上げる。

瞳子避けて、反射的に包丁を振る。

瞳子 なに。やめて。

妻 ちよつと！チエコ？

マスマミ なにしてるの！

チエコ だってもう無理だもん。とにかく一回大人ししてもらわないと。

瞳子 怖い。助けて。

マスマミ 包丁降ろして。

瞳子 だめ。殺される。絶対に殺す。

妻 なんなの？とりあえず落ち着いて。分からないけど、落ち着いて。それ置いて。

瞳子 あの私を殺そうとしたんです！

チエコ ちよつと大人しくしてもらおうと思っただけ。

マスマミ あんたは黙ってて！どうしたら降ろす？

瞳子 …芝居に出して下さい。

チエコ …。

妻 あんたそれでいいの？

マスマミ …。

妻 脅して芝居に出てそれでいいの？

皆 …。

妻 ほら、あんたもよくないと思ってるんでしょ？それ置いて。

瞳子 …。

マスマミ 置いちやダメ！

妻 え？

マスマミ あんたはこのルールに乗っただけ。主張しないと役なんて貰えない！どんなに
尽くしてもメインはいつつも決まってる！

チエコ マスマミは違うじゃん。

マスマミ 違うってなに。私は役者なの。芝居するためにここにいるの！

チエコ 分かってるけど。

マスマミ 自分はいっつもヒロインで見下してるんでしょ？

チエコ そんなことないよ。

マスマミ だからこのうのうと復帰しようなんて言えるのよ。ここならメインの役できると思
ってるんでしょ？

妻 マスマミ落ち着いて。

マスマミ いっつも私は老婆か石女じゃない！

妻 それはイメージとか得手不得手があるから。

チエコ なら、他に行けばいいじゃん。

妻 ちよつと！

マスマミ …。

チエコ 他でやってく自信がないから残ってるんでしょ？

マスミ …。

妻 マスミはここで芝居をやりたいからいるの。懸けてるの。

マスミ …。

妻 ねえ？

チエコ …本当？

マスミ …。

チエコ ココでやりたいの？

マスミ 辞めたあんたに言いたくない。

チエコ それってやりたくないってことじゃないの？

マスミ どこで何をするかは私が決める。

妻 ほら、マスミはここでやりたいの。チエコだって本当は帰って来たいんじゃないの？

チエコ 私は…

妻 芝居演りたいんでしょう？

瞳子 わたし、どうしたらいいですか？

間

チエコ そうだよね。君の話だよね。

瞳子 高橋です。

チエコ 高橋の、ね。

マスミ どうしたいの？

瞳子 分からない。

妻 は？

瞳子 分からなくなりました。

妻 あんた勝手すぎるでしょ。そもそも客演の話なんて…

マスミ、妻の腕を掴み止める。

瞳子 客演のお話は嬉しいです。でも…

マスミ でも？

瞳子 あの、

妻 なに？

瞳子 嫌いになりそうです。

妻 あんたの言ってること分かんないんだけど。

マスミ 刺激しないで下さい。

妻 はあ？

マスミ 何を嫌いになりそうなの？

瞳子 みんな。

マスミ …。

瞳子 勝手です。去年お前には無理だ、周りが見えてない、稽古にならないって降ろしたのに。同じじゃないですか。わたし、ここで演りたくない。嫌いになりたくない。。…帰ります。

マスミ え？

瞳子 (包丁を置き) さようなら。

瞳子 出て行く。

妻 なんだったの？

マスミ …。

マスミ、包丁片付けようと手を伸ばすが、チエコが包丁をとる。

妻 チエコ？

マスミ なに？

チエコ 明日、また明日、そしてまた明日と、時は小刻みな足取りで一日一日を歩み、ついには歴史の最後の一瞬にたどりつく、昨日という日はすべておろかな人間が塵と化す死への道のりを照らしてきた。消える、消える、つかの間の燈火！人生は歩き回る影法師、あわれな役者だ、舞台の上で大げさに見得を切っても出場が終われば消えてしまう。白地のしゃべる物語だ、わめき立てる響きと怒りは凄まじいが、意味はなに一つありはしない。

ふたり …。

チエコ 包丁を刺そうとするが手が震え刺せない。

妻 止めなさい。

チエコ なんてね。

マスミ は？

チエコ 懐かしくなっちゃって。何も変わってないから。私も帰るね。

妻 あんたまで、なんなの？

チエコ すみません。

妻 何やってんの？

チエコ 私にはやっぱ芝居しかないんだって思っていました。でも、違うみたいです。

マスミ それでいいの？

チエコ いいの。お騒がせしました。

妻 意味わからない。まだ分からないの。こんな場所他にあった？なかったでしょう？

チエコ …。

妻 何がいけないの？

チエコ 何も変わってない。

妻 それが？

チエコ 違う景色がみたいんです。

妻 それで、芝居してないじゃない。

チエコ そうだけど、でも少しずつだけど、変わってる。変化があるんです。でも、ここには変わろうとする気概がない。

妻 違う。守ってるの。そうでしょう？

マスミ …。

チエコ …。

妻 未練があるんじゃないの？

チエコ もう来ません。

妻 じゃあどうして戻ってきたの。また芝居したいんでしょう？

マスミ 答えは出てるじゃないですか。意味ないですよ。

妻 でもマスミだって帰ってきてほしいでしょう？

マスミ え？

妻 チエコがいれば心強いじゃない。

マスマミ やる気がない人がいても迷惑です。

妻 そんな言い方ないでしょう。

チエコ マスマミの言う通りです。縋ってたんです。

妻 じゃあ

チエコ やっぱり私はこの人間じゃない。私は生活を選んだんです。

マスマミ …。

妻 でも、なんとか踏ん張ってやって来たじゃない。

チエコ 怖いんです。天井が見えるんです。ここにおいても景色は変わらない。来年も再来年もずっと同じなんだって。これ以上失望したくないんです。

妻 それって、私達に未来はないってこと。

チエコ そう感じました。

妻、チエコを酒瓶で殴る。

妻 ここは、私と田原でやってきたの。どいつもこいつも勝手言って、何なの！？

マスマミ ケイコさん！？

マスマミ、妻を止めに入るが止まらない。

チエコは逃げようとするが妻追いかけ殴り続ける。

妻 あんた達は感謝してるはずよ！

チエコ動かなくなる。

マスマミ …チエコ？

チエコを揺さぶるが動かない。

マスマミ 救急車！

妻 ダメ！

マスマミ でも死んじゃう。

妻 絶対に許さない。…ビニールシートあったよね？持ってきて。

マスマミ …。

妻 早くして！

マスマミ下手楽屋に引っ込む。

妻は床の血を拭いたり、酒瓶を拭く。

妻 上半身持って。

マスマミ ひっ！

妻 早く！

ビニールシートに包んでいく。

妻 私が守るの。大丈夫。誰も気づかない。大丈夫。私がなんとかするから。

マスマミ、妻の姿をみている。

上手扉側からサイレンと車の走行音が聞こえている。

赤いテールランプが見え、暗転。

ブルーの中で、瞳子が上手扉から入ってくる。

明かりを着けようとするがつかない。

冒頭と同じダンスを静かに踊る。